

安全データシート

1. 製品及び会社情報

| | |
|----------|----------------------------|
| 製品名 | スズメバチエアゾール |
| 整理番号 | SCE1808 |
| 会社名 | 住友化学園芸株式会社 |
| 住所 | 〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町1番8号 |
| 担当部門 | 研究開発部 |
| 電話番号 | 03-3660-8015 |
| F A X 番号 | 03-3660-8002 |

2. 危険有害性の要約

GHS分類

| | | |
|-----------|-------------------|-----------|
| 物理化学的危険 | 爆発物 | 分類対象外 |
| | 可燃性又は引火性ガス | 分類対象外 |
| | エアゾール | 区分1 |
| | 支燃性又は酸化性ガス | 区分外 |
| | 高压ガス | 分類対象外 |
| | 引火性液体 | 分類対象外 |
| | 可燃性固体 | 分類対象外 |
| | 自己反応性化学品 | 分類対象外 |
| | 自然発火性液体 | 分類対象外 |
| | 自然発火性固体 | 分類対象外 |
| | 自己発熱性化学品 | 分類対象外 |
| | 水反応可燃性化学品 | 分類対象外 |
| | 酸化性液体 | 分類対象外 |
| | 酸化性固体 | 分類対象外 |
| | 有機過酸化物 | 分類対象外 |
| | 金属腐食性物質 | 分類できない |
| 健康に対する有害性 | 急性毒性（経口） | 区分外 |
| | 急性毒性（経皮） | 区分外 |
| | 急性毒性（吸入：ガス） | 分類できない |
| | 急性毒性（吸入：蒸気） | 分類できない |
| | 急性毒性（吸入：粉じん、ミスト） | 分類できない |
| | 皮膚腐食性及び皮膚刺激性 | 区分2 |
| | 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 | 区分2B |
| | 呼吸器感作性 | 分類できない |
| | 皮膚感作性 | 分類できない |
| | 生殖細胞変異原性 | 分類できない |
| | 発がん性 | 分類できない |
| | 生殖毒性 | 分類できない |
| | 特定標的臓器毒性（単回ばく露） | 区分3（麻酔作用） |

| | | |
|-----------|-----------------|--------|
| 環境に対する有害性 | 特定標的臓器毒性（反復ばく露） | 区分外 |
| | 吸引性呼吸器有害性 | 区分1 |
| | 水生環境有害性（急性） | 区分2 |
| | 水生環境有害性（長期間） | 区分2 |
| | オゾン層への有害性 | 分類できない |

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険

危険有害性情報

- ・極めて可燃性又は引火性の高いエアゾール
- ・高圧容器：熱すると破裂のおそれ
- ・皮膚刺激
- ・眼刺激
- ・眠気又はめまいのおそれ
- ・飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ
- ・水生生物に毒性
- ・長期継続的影響によって水生生物に毒性

注意書き

安全対策

- ・熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。
- ・裸火又は他の着火源に噴霧しないこと。
- ・使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。
- ・粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。
- ・屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
- ・取扱い後は顔と手をよく洗うこと。
- ・保護手袋を着用すること。
- ・本製品の用途以外の目的で環境への放出を避けること。
- ・無理に吐かせないこと。
- ・皮膚に付着した場合：多量の水と石けん（鹼）で洗うこと。
- ・吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・特別な処置が必要である（このラベルの4. 応急措置を参照）。
- ・皮膚刺激が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。
- ・飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。
- ・汚染された衣服を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- ・眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。
- ・気分が悪いときは医師に連絡すること。
- ・漏出物を回収すること。
- ・日光から遮断し、50℃以上の温度にばく露しないこと。

応急措置

保管（貯蔵）

廃棄

- ・換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
- ・施錠して保管すること。
- ・内容物および容器は国および地方自治体（都道府県市町村）の規則に従って適切に廃棄すること。

3. 組成および成分情報

化学物質・混合物の区別 混合物

| 化学名または一般名（不純物及び安定化添加物を含む） | 化学特性 | CAS No. | 濃度又は濃度範囲（%） | 官報公示整理番号 化審法 | 安衛法 |
|---------------------------|---|-------------|-------------|-----------------|------------|
| 噴射物 | | | | | |
| モンフルオロトリン | C ₁₉ H ₁₉ O ₃ F ₄ N | 609346-29-4 | <0.9 | — | 4-(7)-2338 |
| メトフルトリン | C ₁₉ H ₂₂ O ₃ F ₄ | 240494-70-6 | <0.9 | — | 3-(1)-74 |
| シラフルオフェン | C ₂₅ H ₂₉ FO ₂ Si | 105024-66-6 | <0.3 | (3)-4195 | 4-(3)-59 |
| 溶剤 | 非公開 | 非公開 | >60.0 | 非公開 | 非公開 |
| 噴射剤 | | | | | |
| 液化石油ガス | 非公開 | 非公開 | <60.0 | 非公開 | 非公開 |

4. 応急措置

吸入した場合

被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移動させ、呼吸しやすい姿勢で休息させる。呼吸が困難な時には、酸素吸入を行う。呼吸が停止している場合には、人工呼吸を行う。鼻をかみ、口、喉を水でゆすぐ。体を毛布などで覆い、保温して安静を保つ。速やかに医師の診断を受ける。呼吸をしながら嘔吐がある場合は頭を横に向ける。物質への曝露の影響が遅れて出てくることがある。経過観察をする必要がある。

大量に吸入した場合、急性中毒の際の痙攣症状に対する対症療法としてフェノバルビタールの投与が有効である。

皮膚に付着した場合

汚染された衣類、靴などを速やかに脱ぎ捨てる。製品に触れた部分を多量の水と石けんで流しながら洗浄する。凍傷を起こすおそれがあるため、外観に変化が見られたり、痛みが続く場合は、直ちに医師の診断を受ける。

目に入った場合

できるだけ早く水で洗い始め、数分間注意深く洗う。洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行き渡るように洗浄する。コンタクトレンズを使用している場合は、固着していない限り、取り除いて洗浄する。その後も洗浄を続ける。直ちに医師の診断／手当てを受ける。

飲み込んだ場合

エアゾールを直接経口摂取することは想定されないが、本剤の噴射を受けた食品等を経口摂取した場合、水で口の中をよく洗浄する。無理に吐かせない。コップ1～2杯の水または牛乳を与え、胃内で薄めてもよい。被災者を直ちに空気の新鮮な場所に移動させ、呼吸しやすい姿勢で休息させる。体を毛布などで覆い、保温して安静を保つ。速やかに医師の診断を受ける。呼吸をしながら嘔吐がある場合は頭を横に向ける。

**最も重要な兆候及び症状
応急措置をする者の保護**

眠気およびめまい
救助者が製品に触れないよう、手袋やゴーグルなどの保護具を着用する。

5. 火災時の措置**消火剤
使ってはならない消火剤
特有の危険有害性**

粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素など
棒状放水

極めて引火性または可燃性が高い。熱、機械火花、静電気火花、裸火などの着火源で容易に着火するおそれがある。加熱により容器が爆発するおそれがある。火災時に物質の分解生成物である一酸化炭素などの有害なガスが煙やヒュームに含まれるおそれがある。漏出物や消火水は水系汚染のおそれがある。可能であれば容器からの漏出をとめる。

特有の消火方法

可能であれば、保護された位置から消火する。大規模火災あるいはタンク火災の場合には、消火は有効に行える最も遠い距離から、モニター付ノズル等を活用し無人化を図る。風上から作業する。火災発生場所周辺への関係者以外の立ち入りを禁止する。もし可能であれば、熱にさらされた容器を移動するか、または水で冷却する。消火後も大量の水を用いて十分に容器を冷却する。高圧の流水を使って漏出液を飛散させない。消火に用いた水は堰を作って囲い、後で廃棄する。製品がちらばらないようにする。

消火を行う者の保護

消火作業は風上から行い、適切な保護具（防火服、耐熱服、空気呼吸器、循環式酸素呼吸器、ゴム手袋、ゴム長靴）を着用する。

6. 漏出時の措置**人体に対する注意事項、
保護具および緊急時措置**

火気厳禁。処理が終わるまで十分に換気する。作業の際には、製品が皮膚に付着したり、眼に入ったりしないように適切な保護具を着用する。風下の人を退避させ、風上から作業する。漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。周辺の居住者に警告する。

環境に対する注意事項

漏出液処理時の廃液が環境中の生物や水質に影響を及ぼさないように、河川等に排出しない。また、排水溝、下水溝、地下室、あるいは閉鎖場所へ流入するのを防ぐ。

**封じ込め及び浄化の方法・
機材**

危険でなければ漏れを止める。漏出液を乾燥した土、砂や不燃性材料で吸収させ、安全な場所に移す。火花を発生させない工具を使用する。大量の場合、広がらないように堰を作り、後で廃棄する。

二次災害の防止策

全ての着火源（熱/火花/裸火/高温表面/静電気放電、等）を取り除く。静電気放電に対する予防措置を講ずる。適切な消火剤を準備する。屋内の場合、気中濃度が危険な濃度に達しないよう、防爆型換気扇などを用いて適切に換気する。大量の場合、風下に適切な避難距離をとる。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

| | |
|-----------|--|
| 技術的対策 | 屋外または換気のよい場所で行う。屋外で行う場合は、できるだけ風上から作業する。防爆型の電気機器/換気装置/照明設備/装置を使用する。火花を発生させない工具を使用する。眼、皮膚、衣類に付けない。 |
| 局所排気・全体換気 | 局所排気または全体換気を行なう。 |
| 注意事項 | 火気厳禁！ストーブなどの暖房機器や熱、火花、裸火、高温のものなどの着火源のあるところでは絶対に使用しない。適切な保護具を着用する。スプレー缶は使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。 |
| 安全取扱い注意事項 | エアゾール、ガス、蒸気を吸入しない。取扱い後に手、顔などをよく洗うがいをする。取り扱う場所での飲食と喫煙を禁止する。汚染された作業衣は作業場から出さない。 |

保管

| | |
|-----------|--|
| 技術的対策 | 火気厳禁。熱/火花/裸火/高温表面のような着火源から遠ざける。一禁煙。静電気に対する予防措置を講ずる。揮発性があるので、スプレー缶は換気の良い涼しい場所に保管する。 |
| 適切な保管条件 | 直射日光を避け、保管場所を40℃以下に保つ。食料や飼料から離して、子供の手の届かない場所に保管する。 |
| 安全な容器包装材料 | 耐火性密閉容器 |

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策

閉鎖された場所で使用する場合や大量に使用する場合は換気設備を設置する。大量に取り扱う場所の近くに、安全シャワー、手洗い・洗眼設備を設置する。静電気対策を講じる。

管理濃度 ¹⁾

未設定

許容濃度

日本産業衛生学会 ²⁾ [ブタン(全異性体)] 許容濃度：500ppm 1200mg/m³

ACGIH ³⁾ [液化石油ガス] TLV-TWA：1000ppm
[2,6-ジ-*tert*-ブチル-4-クレゾール] TLV-TWA：2mg/m³

保護具

| | |
|------------|---------------------------|
| 呼吸器の保護具 | 必要に応じて有機ガス用防毒マスクまたは送気マスク |
| 手の保護具 | 化学防護手袋 |
| 目の保護具 | 保護めがねまたは保護面 |
| 皮膚及び身体の保護具 | 不浸透性保護前掛け、保護服（長袖作業衣）、保護長靴 |

適切な衛生対策

エアゾール、ガス、蒸気、スプレーを吸入しない。適切な保護具を着用してすべての接触を避ける。休憩前、作業終了時には手や顔の洗浄を徹底する。この製品を使用する時に、飲食および

び喫煙をしない。汚染された作業衣は作業場から出さない。

9. 物理的及び化学的性質

| | |
|------------------|--|
| 外観（物理的状态、形状、色など） | エアゾール ⁴⁾ |
| 臭い（臭いの閾値） | データなし |
| pH | 測定不可 ⁴⁾ |
| 融点／凝固点 | データなし |
| 沸点、初留点と沸騰範囲 | データなし |
| 引火点 | 液化石油ガス：-104～-49℃ ⁵⁾ 噴射物：69℃（タグ密閉式） ⁴⁾ |
| 自然発火温度（発火点） | 液化石油ガス：309～-460℃ ⁵⁾ |
| 燃焼性（固体、ガス） | 液化石油ガス：きわめて引火爆発しやすい。 ⁵⁾ |
| 燃焼又は爆発範囲の上限／下限 | |
| 下限 | データなし |
| 上限 | データなし |
| 蒸気圧 | 液化石油ガス：0.015～1.275 MPa（20℃） ⁵⁾ |
| 蒸気密度（空気＝1） | データなし |
| 蒸発速度（酢酸ブチル＝1） | データなし |
| 比重（相対密度） | データなし |
| 溶解性 | |
| 水 | データなし |
| 有機溶剤 | データなし |
| オクタノール/水分配係数 | データなし |
| 分解温度 | データなし |
| 粘度（粘性率／動粘性率） | 溶剤（動粘性率）：2.53mm ² /sec（40℃） ⁶⁾ |

10. 安定性及び反応性

| | |
|------------|---|
| 安定性 | 圧力容器内では安定である。 容器から噴射後、噴射剤は気化して拡散する。 溶剤は容易に蒸発する。 |
| 危険有害反応可能性 | 噴射剤：酸化性物質と激しく反応する。 |
| 避けるべき条件 | 高温および着火源、静電気帯電 |
| 混触危険物質 | 溶剤：強酸化剤 |
| 危険有害な分解生成物 | 加熱分解生成物：一酸化炭素など |

11. 有害性情報

本製品の有害性に関する情報はないが、各成分について以下の情報がある。

急性毒性

| | |
|----|--|
| 経口 | [モンフルオロトリン] LD ₅₀ >2000mg/kg(ラット) ⁷⁾ |
| | [メトフルトリン] LD ₅₀ >2000mg/kg(ラット) ⁸⁾ |
| | [シラフルオフエン] LD ₅₀ >5000mg/kg(ラット) ⁹⁾ |

| | |
|---------------------|---|
| 経皮 | [モンフルオロトリン] LD ₅₀ >2000mg/kg(ラット) ⁷⁾ [メトフルトリン] LD ₅₀ >2000mg/kg(ラット) ⁸⁾ [シラフルオフエン] LD ₅₀ >5000mg/kg(ラット) ⁹⁾ |
| 吸入(ガス) | データなし |
| 吸入(蒸気) | データなし |
| 吸入(粉塵、ミスト) | [モンフルオロトリン] LC ₅₀ 1.030-1.329 mg/L(ラット) ⁷⁾ [メトフルトリン] LC ₅₀ 1.0-2.0 mg/L(ラット) ⁸⁾ [シラフルオフエン] LC ₅₀ >6.61mg/L(ラット) ⁹⁾ |
| 皮膚腐食性/刺激性 | [モンフルオロトリン] 皮膚刺激性なし(ウサギ) ⁷⁾ [メトフルトリン] 皮膚刺激性なし(ウサギ) ⁸⁾ [シラフルオフエン] 皮膚刺激性なし(ウサギ) ⁹⁾ [溶剤] 皮膚刺激性あり(ウサギ) ¹⁰⁾ |
| 眼に対する重篤な損傷性 /刺激性 | [モンフルオロトリン] 中等度の眼刺激性あり(ウサギ) ⁷⁾ [メトフルトリン] 眼刺激性なし(ウサギ) ⁸⁾ [シラフルオフエン] 眼刺激性なし(ウサギ) ⁹⁾ [溶剤] 眼刺激性あり(ウサギ) ¹⁰⁾ |
| 呼吸器感作性 | データなし |
| 皮膚感作性 | [メトフルトリン] 皮膚感作性なし(モルモット) ⁸⁾ [シラフルオフエン] 皮膚感作性なし(モルモット) ⁹⁾ |
| 生殖細胞変異原性 (変異原性) | [モンフルオロトリン] Ames試験: 陰性 ⁷⁾ 遺伝子突然変異試験(チャイニーズハムスター): 陰性 ⁷⁾ 染色体異常試験(チャイニーズハムスター): 陽性 ⁷⁾ 小核試験(ラット, 経口, 骨髄): 陰性 ⁷⁾ 不定期DNA合成試験(ラット, 経口, 肝臓): 陰性 ⁷⁾ [メトフルトリン] <i>in vivo</i> 試験: 陰性 ⁸⁾ [シラフルオフエン] <i>in vitro</i> 及び <i>in vivo</i> の変異原性試験で陰性 ⁹⁾ |
| 発がん性 | [モンフルオロトリン] ラット・マウス発がん性試験: 発がん性なし ⁷⁾ [メトフルトリン] 発がん性試験: 発がん性なし ⁸⁾ [シラフルオフエン] ラット・マウス発がん性試験: 発がん性なし ⁹⁾ |

生殖毒性

- [モンフルオロトリン]
 ラット・ウサギ催奇形性試験(経口)：催奇形性なし⁷⁾
 ラット2世代繁殖毒性試験(混餌)：繁殖性に影響なし⁷⁾
- [メトフルトリン]
 動物試験：影響なし⁸⁾
- [シラフルオフエン]
 繁殖性試験：ラット：繁殖性への影響あり⁹⁾
 催奇形性試験：ラット・ウサギ：催奇形性なし⁹⁾

特定標的臓器毒性
(単回暴露)

- [モンフルオロトリン]
 ラット急性毒性試験(経口・経皮)：特定標的臓器は認められない⁷⁾
 ラット急性毒性試験(吸入, 4hrs)：神経系⁷⁾
- [メトフルトリン]
 動物試験：神経系⁸⁾
- [シラフルオフエン]
 ラットを用いた急性毒性試験の結果、特定臓器への影響は見られなかった。⁹⁾
- [液化石油ガス]
 呼吸器への刺激のおそれ、眠気またはめまいのおそれ⁵⁾

特定標的臓器毒性
(反復暴露)

- [モンフルオロトリン]
 ラット28日間反復投与毒性試験(吸入)：神経系⁷⁾
- [メトフルトリン]
 動物試験：影響なし⁸⁾
- [シラフルオフエン]
 ラット・イヌを用いた90日反復経口投与毒性試験の結果、特定臓器への影響は見られなかった。⁹⁾

吸引性呼吸器有害性

- [溶剤] 飲み込むあるいは吐き出すときに、吸引される少量の液体が化学的気管支炎ないしは肺水腫を引き起こす可能性がある。(動粘性率：2.57mm²/sec 40°C)⁶⁾

12. 環境影響情報

各成分について以下の情報がある。

生態毒性

魚毒性

- [モンフルオロトリン]
 ブルーギル L C₅₀(96hrs) 0.0029 mg/L⁷⁾
 ニジマス L C₅₀(96hrs) 0.0012 mg/L⁷⁾
 コイ L C₅₀(96hrs) 0.0089 mg/L⁷⁾
 ファットヘッドミノー NOEC 0.0031 mg/L⁷⁾
- [メトフルトリン]
 ヒメダカ L C₅₀(96hrs) 0.00828 mg/L⁸⁾
 コイ L C₅₀(96hrs) 0.00306 mg/L⁸⁾
 ニジマス L C₅₀(96hrs) 0.0012 mg/L⁸⁾
- [シラフルオフエン]
 ニジマス L C₅₀(96hrs) 9.4 mg/L⁹⁾

| | | |
|-----|---|--|
| その他 | [モンフルオロトリン] | |
| | オオミジンコ | E C ₅₀ (48hrs) 0.0078 mg/L ⁷⁾ |
| | | NOEC (21d) 0.0005 mg/L ⁷⁾ |
| | 緑藻 | E r C ₅₀ (0-72hrs) >4.8mg/L ⁷⁾ |
| | | NOEC (0-72hrs) 0.33mg/L ⁷⁾ |
| | [メトフルトリン] | |
| | ミジンコ | E C ₅₀ (48hrs) 0.0012 mg/L ⁸⁾ |
| | 藻類 | E C ₅₀ >1000mg/L ⁸⁾ |
| | [シラフルオフエン] | |
| | オオミジンコ | E C ₅₀ (48hrs) 0.0012 mg/L ⁹⁾ |
| 藻類 | E r C ₅₀ (0-72hrs) >0.0177mg/L ⁹⁾ | |

残留性／分解性 データなし

生体蓄積性 データなし

土壌中の移動性 データなし

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物 内容物は国および地方自治体（都道府県市町村）の規則に従って適切に廃棄する。都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に廃棄処理を委託する。容器内の残余は、火気のない屋外で噴射音が出なくなるまで内容物を完全に排出する。

汚染容器及び包装 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処理を委託する。

1 4. 輸送上の注意

国内規制

陸上規制情報 該当あり（消防法および道路法の規定に従う。）
 海上規制情報 該当あり（船舶安全法の規定に従う。）
 航空規制情報 該当あり（航空法の規定に従う。）

国際規制

国連分類 クラス 2. 1 引火性ガス
 国連番号 1950
 品名 エアゾール類

輸送の特定の安全対策及び条件 輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。車輛、船舶には保護具（手袋、眼鏡、マスク等）を備える他、緊急時の処理に必要な回収器具・容器、工具などを備えておく。火気厳禁！ 直射日光を避け、40℃以下で輸送する。消防法、船舶安全法、航空法の危険物に該当するため、同法の規定に従った容器、積載方法に従って輸送する。

移送時にイエローカードの保持が必要。

緊急時応急措置指針番号 126

15. 適用法令

| | |
|---------|---|
| 労働安全衛生法 | 危険物・引火性の物(施行令別表第1第4号)[液化石油ガス] |
| 消防法 | 危険物・可燃性のガス(施行令別表第1第5号)[液化石油ガス] 貯蔵等の届出を要する物質(法第9条の3・危険物令第1条の10)[液化石油ガス] |
| 高圧ガス保安法 | 危険物第4類引火性液体第二石油類(非水溶性)[噴射物] 液化ガス(法第2条3)、可燃性ガス(一般高圧ガス保安規則第2条1)[液化石油ガス] |
| 船舶安全法 | 有害性物質(危規則第2、3条危険物告示別表第1)(環境有害物質(液体))[噴射物] |
| 航空法 | 引火性液体類(危規則第2、3条危険物告示別表第1)[噴射物] 高圧ガス(危規則第3条危険物告示別表第1)[液化石油ガス] その他の有害物(施行規則第194条危険物告示別表第1)(環境有害物質(液体))[噴射物] 高圧ガス(施行規則第194条危険物告示別表第1)[液化石油ガス] |
| 港則法 | 引火性液体(施行規則第194条危険物告示別表第1)[噴射物] その他の危険物・高圧ガス(法第21条第2項、規則第12条、危険物の種類を定める告示別表)[液化石油ガス] |
| 道路法 | 車両の通行の制限(施行令第19条の13、(独)日本高速道路保有・債務返済機構公示第12号・別表第2)[液化石油ガス、噴射物] |
| 化審法 | 優先評価化学物質(法第2条第5項)[2,6-ジ-t-ブチル-4-クレゾール] |

16. その他の情報

参考文献

- 1) 中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター；作業環境評価基準(2012)
- 2) 日本産業衛生学会 許容濃度勧告；日本産業衛生学会誌 54巻, 194(2012)
- 3) ACGIH；“TLVs and BEIs”(2013)
- 4) 住友化学園芸株式会社；社内情報
- 5) 株式会社 三愛ガスサプライ関東；製品安全データシート(2012. 11. 22)
- 6) 出光興産株式会社；製品安全データシート(2015. 7. 1)
- 7) 住友化学株式会社；製品安全データシート スミフリーズ(2013. 7. 12)
- 8) 住友化学株式会社；製品安全データシート エミネンス(2013. 8. 22)
- 9) 大日本除虫菊株式会社；製品安全データシート シラフルオフエン(2011. 5. 23)
- 10) 職場のあんぜんサイト；安全データシート 溶剤(2009. 3. 30)

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データにもとづいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。

また、注意事項は通常の実施を対象としたものなので、特殊な取扱いの場合には、用途・用

法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。

改訂履歴

2018年10月29日作成

なお、一部有料とはなりますが、中毒事故等の対応に際しましては、下記公益財団法人日本中毒情報センター〔中毒110番〕にお問い合わせ頂ければ、有効な情報を提供頂くことができます。
中毒の緊急問い合わせ先:公益財団法人日本中毒情報センター(中毒110番)

| | 一般市民専用電話 (問い合わせ料無料) | 医療機関専用電話 (一件2,000円) |
|-----------------------|------------------------|------------------------|
| 大 阪 (365日、24時間対応) | 072-727-2499 | 072-726-9923 |
| つくば (365日、9~21時対応) | 029-852-9999 | 029-851-9999 |